キャラクター名
夏枯 草介(かこ そうすけ)

プレイヤー名

シンドローム	エンジェルハィロゥ ノイマン	ワークス	レネゲイドビーイングB	カヴァー	ブリーダー
オプショナル		年齢	不明(外見年齢20代半ば)	性別	男性
覚醒	感染	衝動	恐怖	初期侵食率	36 %
出自	強制解放	経験	死と再生	邂逅	いいひと

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	0	0	1			1
感覚	3	1	2			6
精神	4	0	0			4
社会	1	0	0			1

HP	26
行動値	16
(非装備時)	16
戦闘移動	21
全力移動	42

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	3		ＲＣ			交渉		
回避			知覚	1		意志	1	1	調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN 初期作成でLv+1	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
思い出の一品	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
超侵蝕(ディープエロージョン)	P	N		
柳井 渉	P 信頼	N 悔悟		
隠居市支部	P 庇護	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2	残り財産P： 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
ヒューマンズネイバー	1	-	常時	-	自身	自動	RB	
効果：	衝動判定Dに+Lv個。基本侵蝕値+5							
オリジン:ヒューマン	1	2	MN	至近	自身	―	RB	
効果：	シーン間のエフェクトを用いた判定の達成値に+LV							
コンセントレイト:An	2	2	MJ	-	自身	ｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ	-	
効果：	C値-Lv(下限7)。							
光の銃	1	2	Set	至近	自身	―	―	
効果：	射撃武器作成。攻撃力+[Lv+2]、射程:視界							
ピンポイントレーザー	2	2	MJ	―	―	ｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ	―	
効果：	装甲無視。攻撃力ー[5-Lv](最大0)							
死点撃ち	3	3	MJ	武器	単体	射撃	―	
効果：	装甲無視エフェクトと組合せ時、攻撃力+[Lv*3]							
コンバットシステム	1	3	MJ/Re	―	―	射撃	―	
効果：	射撃で判定。判定Dに+[Lv+1]							
チェンジ	1	3	Auto	至近	単体	―	100↑	
効果：	対象:単体攻撃の直後使用。対象を自分に変更。リアクションとダメージを代わりに受ける。1R1回まで							
ラストアクション	1	5	Auto	至近	自身	―	100↑	
効果	:戦闘不能時、メインプロセスを行う。行動済でも行え、行っても行動済にならない。終了まで戦闘不能の効果は適用されない。1シナリオ1回							
ウサギの耳	1	―	MJ	―	自身	―	―	
効果：	聴覚の指向性を高める。必要であれば<知覚>で判定可							
ドクタードリトル	1	―	常時	至近	自身	―	―	
効果：	あらゆる言語・動物と意思疎通が可能。可能なら<交渉>で判定							
効果：								
効果：								

隠居(かくらい)市支部
支部の規模は決して小さくはないが、正式なエージェントである柳井 渉と残り数名のイリーガルスタッフ以外の構成員のほとんどがA(アニマル)オーヴァード、あるいはレネゲイドビーイングという、純粋な「人間」が極端に少ない支部。
覚醒したばかりで人語を操れず、意思疎通が困難な構成員に関しては支部長が通訳として間に立っている。
普段は地域の伝統産業である猛禽類の調教、繁殖所として営業しているが、上記の理由もあり、表向きは数人で細々と運営している状態。
主にAオーヴァードたちやレネゲイドビーイングの特性を活かした潜入・諜報任務特化の訓練・育成所として機能しており、支部の特性上、都市部からはやや離れた山間部のベッドタウンに存在している。
人付き合いにやや難のある支部長がだいぶ渋ったため、ベッドタウンとして開発が進んでいる地域のギリギリ端のほうに支部が設置されている。

支部の方針は「任務よりも何よりも各人の命を優先し、何があっても生きて帰ることを優先に」というもの。
支部長として命令をするのはほぼそのひとつのみ。
訓練においても、戦闘技術はもとより、いざという時に生き延びるための術を重点的に教えている。
支部長の方針もあってか、近接戦を得意とする者よりは遠距離・超遠距離からの精密狙撃を得意とする者が多い傾向にある。

隠居市について
都市部のベッドタウンとして人口が増加しはじめているが、都市開発が進む地域と山間部で環境が二極化している。
市の鳥はフクロウ。森林が多く、林業に加えて猛禽類の調教・養殖販売が伝統産業。

――何があっても生きてください。生き抜いて、生き延びてください。おれが支部長として「命令」するのはそれだけです。そのための退路は開きますので。